

一般質問

帰山議員

都市再生整備計画の区域の拡大と長尾山周辺の今後の展開について

Q 質問 公園の施設の更新と新規事業の展開を問う。また野外博物館周辺の利用についての状況を問う。

A 答弁 長尾山総合公園の公園施設の改修については、国の社会資本整備総合交付金の公園施設長寿命化対策支援事業を活用し、耐用年数が過ぎ老朽化したものから安全性を考慮して計画的に実施している。新規事業の展開については、来年のゴールデンウィーク前のオープンを目指し、動く恐竜ロボットを配置したウォークスルー型のディノパークを民間事業者が事業展開することとなっている。

野外恐竜博物館周辺の現地を訪れた市民の方には、林道の終点付近に若干のスペースを駐車場として利用していただき、駐車場スペース付近と観察広場への通路の途中に説明板を設置しているのをご覧いただきたい。化石発掘現場の魅力を感じ取っていただき恐竜渓谷ふくい勝山ジオパークの知識を深めていただくことができるようになっていく。

公共施設の照明のLED化について

Q 質問 学校の教育環境の改善及び維持費の軽減のため、LED化を図るべきでないか。また公共施設全般を含め、国へ補助制度の拡充を求めるべきでないか。

A 答弁 公共施設の照明設備のLED化については、初期投資に多くの財源が必要となることから、各施設の照明のLED化を一気に進めるのではなく必要な箇所から計画的に進めたいと考えている。また、必要な財源について補助制度の創設等を国に対し要望していく予定である。

小中学校の施設についても、省エネルギー推進や維持管理の利点性の観点から、今後照明設備のLED化を進めていく検討が必要と考えている。なお、現時点では、学校施設環境改善交付金事業（国3分の1）を活用することになるが、その補助率のかさ上げ等を求めていく必要もあると考えている。



長尾山総合公園再整備計画（案）

トピックス

○長尾山総合公園再整備特別委員会の設置

長尾山総合公園は、県立恐竜博物館とともに、平成12年のオープン以来、来場者数が増加し、今では、年間70万人を超える来場者があります。当初は、年間入込数40万人を目標に整備してきましたが、現在では、2倍近い数になっています。

多くの来場者で賑わうことは、もとより望むところですが、計画を上回る来場者により、駐車場をはじめ道路舗装の損傷、周辺の交通渋滞など、想定外の課題が浮き彫りになっています。また開園以来14年の年月の経過により、施設全体の老朽化も進んでいます。

市では、これまで、公園内の駐車場の舗装の更新や、交通渋滞の緩和策に多額の予算と労力を費やしてきました。

こうした、山積する課題に対して、勝山市を代表する重要な施設として、継続して維持管理、運営し、来場者の利便性を高めていくためには、明確な将来計画と多額の費用、労力が必要です。

そのため勝山市議会では、長尾山総合公園の持続可能な施設管理、運営の方法を模索するために、全議員で構成する『長尾山総合公園再整備特別委員会』を設置しました。今後も、理事者の考え方をお聞きする中で、議員の意見、知恵をまとめ、より良い方向性を導き出していきたいと思ひます。

長尾山総合公園再整備特別委員会

- 委員長 北山謙治
- 副委員長 松村治門
- 委員 全議員

